

第一回ワークショップのご報告

主催：老上西学区まちづくり協議会

協力：立命館大学（阿部研、金研）

第一回ワークショップを開催しました。

老上西学区のシンボルである帰帆島周辺は、中間水路の水質悪化や外来植物の繁殖、ゴミの不法投棄などの問題があります。

一方で、矢橋公園（旧矢橋港）などの歴史的な史跡や琵琶湖の景観、帰帆島公園で楽しく遊ぶ子どもの姿など、まちの力も数多くあります。

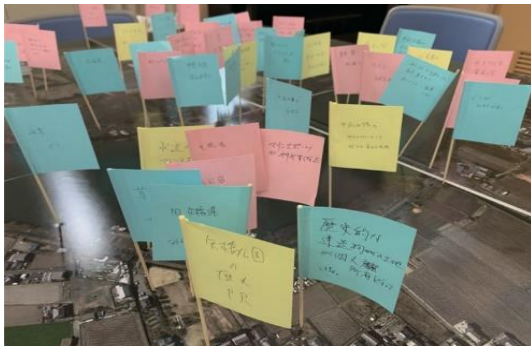
令和三年十一月二十七日に、立命館大学理工学部の建築都市デザイン学科 阿部研究室と、環境都市工学科の金研究室の協力のもと、老上西まちづくりセンターで第一回ワークショップを開催しました。地域の住民の方々と大学生および行政職員が参加し、「旗さしワークショップ」と呼ばれる形で、老上西学区の地域の魅力や問題点を共有しながら、みなさんとまちの特徴について整理しました。旗さしによって意見を出し合うことで、老上西学区と帰帆島周辺の今とこれからを考える機会をつくることができました。

帰帆島周辺の魅力や問題点の再発見

ワークショップでは、参加者のみなさんに航空写真の上に三つの色の旗をさしていただきました。赤色の旗はまちの魅力や思い出の風景、水色の旗は現状の課題や問題点、黄色の旗は将来、どのような場所になったら良いか、未来の姿を書いてもらいました。たくさん思い出や魅力、課題・問題点、将来の帰帆島周辺への思いを共有することができました。

次回は、三月六日（日）十時から開催します。

今回の第一回ワークショップでの意見を踏まえて、次回の第二回ワークショップでは、帰帆島や中間水路における「水辺公園」の整備に向けたアイデアについて話し合う予定です。多くの方のご参加をお待ちしています。



未来の帰帆島を考えるワークショップ（第一回）2021/11/27

